



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 20

(2022年10月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

「花壇造りの記録」から

1964（昭和39）年のアルバムには片倉工業株式会社富岡工場を「より明るい工場にするための一つとして構内各所に花壇造り」が行われたことが記録されています。

人事係や各職場の係長、寮の厚生部員が推進者となり、事務所や各寮の周辺などの空き地に合計12か所の花壇が設けられました。

3月に春咲きの草花であるパンジーやサクラソウ、ヒメコギク、アルメリアなどの苗を購入し、それぞれの花の色合いを考慮しつつ、草丈の低い花を外周に、高い花を中央に配置し、寮生の協力を得ながら定植しました。

6月にはこれら春咲きの草花に代えて、3月から種をまいて育てた苗を定植しています。種類はサルビアやケイトウ、ハゲイトウ、マツバボタン、クジャクソウ（アスター）、マンジュギク（マリーゴールド）などでした。

当時の花壇苗の流行が見て取れるとともに、現在、ホームセンターなどで見かける草花とは異なる呼び名のものもあり、時代の流れを感じます。

現在の富岡製糸場では、群馬県立富岡実業高等学校の草花部の生徒が地域活性化の一環として地元の園児や児童と一緒に花壇苗の定植作業を行っています。夏にはサルビア、春にはビオラが富岡製糸場を彩ります。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー
はこちらから▼

